

道の駅

「なつぞらのふる里」から十勝・音更町を周ろう！

特集

道の駅おとふけ なつぞらのふる里



月居謙介

1. 十勝の玄関口として

十勝平野のほぼ中央に位置する音更町は、平坦な地形や水利、日照時間に恵まれ、広大で肥沃な大地を生かした大規模土地利用型農業が展開されています。特に小麦、大豆、小豆については、作付面積・生産量が全国トップクラスです。

観光に関しては、世界的にも希少な「モール温泉」を湧出する十勝川温泉を有しているほか、直径18メートルの花時計「ハナック」、北海道立十勝エコロジーパーク、映画やテレビ等のロケにも使用される家畜改良センター十勝牧場の白樺並木などの人気のスポットがあります。

また、町村としては全道一の人口を有し、2022年12月末現在の人口は43,268人、豊かな自然と充実した都市機能を併せ持つ活気に満ちて暮らしやすいまちです。



図-1 音更町位置図

2. 道の駅おとふけの概要

(1) 移転整備の経緯

道内で31番目の道の駅である道の駅おとふけは、1991年8月に開業した音更町特産センターの

施設を活用して1996年4月16日に道の駅に登録されました。

四半世紀にわたって地域の魅力発信の機能を果たしてきましたが、老朽化や狭あい化により移転整備を進めることとなり、2022年4月15日、新たな地に「なつぞらのふる里」という愛称を加えて移転オープンしました。

新たな道の駅おとふけは、道東自動車道音更帯広ICから南に700メートル、地域を代表する菓子メーカー「柳月」の工場兼旗艦店である「スイートピア・ガーデン」に隣接し、道東・十勝を訪れる皆さんの「玄関口」としての機能が期待されています。

(2) 整備手法

道の駅おとふけの移転整備について、2012年5月に庁内のプロジェクトチームを立ち上げ、町内の関係団体も含めた意見交換を実施、2014年3月には基本構想を策定し、関係者による先進地視察やワークショップを重ねてきました。

その結果、整備手法としては、PFIに類似したDBO (Design Build Operate) 方式とすることとし、2018年12月から実施事業者の公募を開始しました。

(3) 実施事業者の選定

実施事業者の選定方法は、プロポーザル方式によることとし、2019年5月にヒアリングを行いました。その結果、株式会社オカモトを代表事業者とする「ヴェスタおとふけグループ」が実施事業者として選定されました。

【ヴェスタおとふけグループ構成企業】

株式会社オカモト(代表事業者・運営)、宮坂建設工業株式会社(建設)、村上土建開発工業株式会社(建設)、株式会社ジオックス(建設)、株式会社アトリエブング(設計)、株式会社藤然社(運営)、鈴蘭ビルサービス株式会社(維持管理)、株式会社創造設計舎(協力事業者・設計)

(4) 愛称とロゴマークについて

愛称を公募したところ、669人から1,021作品の応募がありました。

町と実施事業者で構成する「道の駅おとふけ活性化協議会」による厳正な審査の結果、大阪府在住の方の作品、「なつぞらのふる里」を選定しました。

広大で豊かな大地、恵まれた気候を生かして様々な農畜産物が生産される農業が基幹産業のまちである音更町は、「日本の食を支えるまち」とも言えます。この豊かな農畜産物をもたらす恵みとして「十勝晴れ」は欠かすことのできないもので、青くて爽やかで大きく広がる青空、特に夏の真っ白な雲と真っ青に澄み切った空のコントラストは美しく、その果てしない様子を見るものを圧倒します。この美しく、私たちに大いなる恵みをもたらす空への想いを連想させる「なつぞら」を強くアピールし、道の駅おとふけがその「ふる里」となる意気込みを示す意味合いが込められたものとして、この愛称が選定されました。

また、愛称の決定に合わせてロゴマークを定め、道の駅おとふけ内の各所や印刷物、デジタルデータなどに掲載することでブランドイメージの向上を図ります。



図-2 ロゴマーク

(5) 施設概要

所在地：音更町なつぞら2番地

敷地面積：80,378m²(公園・国整備エリア含)

延床面積：1,960.64m²

規模構造：木造一部鉄骨造平屋建

駐車場：284台(大型22台、身障者・妊婦用4台、EV充電器2台、車中泊用12台含)※隣接する公園、柳月スイートピアガーデンの駐車場を合わせると約1,000台の駐車能力有

トイレ：43器(男(大)9器、(小)10器
女21器、多目的3器)

出店者：飲食店9店、物販2店(農畜産物等販売所、なつぞらエリア内売店)

指定管理者：オカモト・鈴蘭ビルサービスグループ



写真-1 道の駅おとふけ全景

(6) 交通結節点

道の駅おとふけの北側に隣接する「なつぞら公園」は、約300台の駐車場を備えており、ここに自家用車を駐車し、高速バス等で目的地に移動する交通結節点(パーク・アンド・バスライド)機能を有しています。現在は、札幌、旭川、新千歳空港、釧路空港への高速バス及び帯広空港連絡バスが運行しています。



写真-2 なつぞら公園内バス乗降所

(7) なつぞらエリア

道の駅おとふけの敷地内には、2019年に放送されていたNHK連続テレビ小説「なつぞら」の十勝編で登場したセットの一部を再現した「なつぞらエリア」が整備されています。

ドラマのファンはもちろん、ドラマを知らない人でも十勝ならではの牧歌的な景観やドラマに関連する展示が楽しめ、「なつぞら」の世界観を体感することができる人気のスポットです。



写真-3 なつぞらエリア

(上段：ヒロインが暮らした柴田家牛舎・サイロ・母屋、下段：菓子店「雪月」)

(8) 飲食店

道の駅おとふけは、「とかちの食の集結」をコンセプトに魅力ある9つの飲食店が入店しています。

また、各店では十勝・音更町の農畜産物を使用した選りすぐりのメニュー、そして地元の中学生在が参画して考案したメニューなどを展開しており、人気を集めています。

① Petit Joie(プチジョア)

道内各地で腕を振るったシェフが営む洋食店で、地元の食材を用いたオムライス、ドリア、パスタなどのメニューが楽しめます。



写真-4 「白いオムライス」

② 豚丼のぶたはげ

十勝ではおなじみの「ぶたはげ」の豚丼が楽しめます。また地元の野菜などを用いたサイドメニューの豚汁が人気です。



写真-5 「オトプケ豚汁セット」

③ らあめん藤(ふじ)

地元の人気ラーメン店が道の駅おとふけに移転しました。地元産の小麦、豚肉を使用したこだわりのラーメンです。



写真-6 「たっぷりおとふけチャーシューめん」

④そばや然(ぜん)

「十勝海霧そば」を特注製粉・製麺し、具材には地元の野菜や牛肉などを使用したこだわりの、かつ、カジュアルスタイルのお蕎麦を味わえます。



写真-7 「ビーフぶっかけ(冷)」

⑤うどん麦笑 吉咲(むぎわら いちえ)

十勝・池田町の人気店「さぬきうどん工房 麦笑」の2号店で、道の駅店では地元的小麦を使用したうどんを味わえます。



写真-8 「肉ごぼう天ぶっかけ」

⑥和の実 榊(さかき)

帯広の和食居酒屋「食彩酒楽 榊」が和食レストランとして道の駅おとふけに出店しました。地元産の食材のメニューを楽しめます。



写真-9 「とがち小鉢御前」

⑦茶屋 Green(ちゃや グリーン)

帯広の人気スイーツ・カフェ「CAFE GREEN」が和風をコンセプトに道の駅に出店しました。地元の小豆などを使用したスイーツを楽しめます。



写真-10 「ほうじ茶ティラミス」

⑧満寿屋商店(ますやしょうてん)みちます

十勝ではおなじみのベーカリー「満寿屋商店」の道の駅店「みちます」では、道の駅限定の地元産の食材をふんだんに用いたパンを楽しめます。



写真-11 「オトプケ牛っと!カツバーガー」

⑨SKYPIEA(スカイピア)

唯一の屋外に面したテイクアウト専門店です。地元よつ葉乳業製のソフトクリームやこだわりの唐揚げなどを楽しめます。



写真-12 「骨付き唐揚げ」

(9)物販店

①なつぞら市場

十勝・音更町の農畜産物を用いた加工品や特産品のほか、十勝の水産物や地元の方の普段使いの買い物も楽しんでいただけるよう全国の旬の果物や野菜も販売しています。また、約30件の地元の契約生産者が栽培した新鮮な野菜の直売コーナーも併設されているほかオリジナルグッズや雑貨、手芸品などが販売されています。



写真-13 「なつぞら市場」店内

②なつぞらエリア内売店

なつぞらエリア内の菓子店「雪月」のセットを再現した建物内には、売店コーナーがあり、ドラマの世界観を感じることができるお土産を取り揃えています。中でも限定販売の菓子セットはとても人気があります。



写真-14 「なつぞらエリアセット」

3. 災害時に頼れる道の駅

道の駅おとふけは、災害対応にも力を入れています。音更町の地域防災計画において、指定避難所、指定緊急避難場所及び車中避難場所に位置付けられているほか、道東自動車道音更帯広ICに至近である地の利を活かし、広域災害時の支援拠点として機能できるように想定した施設整備をしております。

館内は、停電時も自家発電で72時間対応が可能であるほか、断水時も井水が使用でき、防災倉庫には発電機や避難者向けの毛布などの資機材も備蓄しています。

また、2022年8月、北海道開発局帯広開発建設部と音更町との間で災害時における防災拠点化に関する協定を締結し、道路管理者と道の駅設置者が連携して道の駅の災害対応力の強化に努めています。

2022年11月には、大規模な雪害により交通網が寸断されたとの想定で関係者が一堂に参集した防災訓練を実施し、「災害時にも頼れる道の駅」を目指して取り組んでいます。



写真-15 防災訓練(避難所開設準備)の様子

4. 賑わいと交流の拠点施設に

道の駅おとふけには大型遊具やプロジェクションマッピングを設置したキッズコーナーがあり、お子様連れの来場者も楽しんでいただいています。

フードコートである「なつぞらダイニング」や団体で休憩することができる「多目的ルーム」では、音楽イベントや研修会、講演会など、さまざまな催事が開催されています。

また、屋外には大型イベントも開催可能な広場が

あり、2022年10月に開催された音更町の収穫祭的なイベント「みのり～むフェスタおとふけ」や12月に開催された花火イベント「冬華火 in なつぞらのふる里」のメイン会場としても活用され、徹底した新型コロナウイルス感染症対策のもと、多くの来場者で賑わいました。



写真-16 みのり～むフェスタおとふけの様子

5. 今後の展望

道の駅おとふけは、移転オープンからおよそ6か月経過した2022年9月29日に来場者数累計100万人を達成しました。



写真-17 100万人達成セレモニーの様子

新型コロナウイルス感染症による行動制限がなくなったタイミングで移転オープンを迎えられるなどの幸運にも恵まれましたが、道の駅おとふけのコンセプトなどが評価され、多くの来場者の皆様にお越しいただいたものと考えております。

今後、アフターコロナ・ウィズコロナを見据え、国内外の団体を中心とした観光客の受入対応能力の強化を図るとともに、ナショナルサイクルルート「ト

カプチ 400」の沿道施設としてサイクリストの皆様に使やすい道の駅を目指すなど、現在の盛況を今後も持続させるため、指定管理者と一体となって取り組めます。

さらに音更町のもう一つの道の駅である「道の駅 ガーデンスパ十勝川温泉」をはじめ近隣の道の駅との連携を強化し、道東・十勝の玄関口として地域の魅力発信、地域活性化の拠点施設としての役割を果たしていきたいと考えております。



図-3 道の駅おとふけポスター

月居 謙 介 (つきおり けんすけ)

音更町経済部産業連携課長

